

事務事業名 パパママサロン事業

政策:04 だれもが生きがいを持って安心して暮らせるまちづくり
施策:03 健康づくりの推進
基本事業:03 母子保健の充実

部名:保健福祉部
課名:健康支援課

計画年度	年度 ～ 年度	事業区分	継続	会計区分	普通会計	
1 対象（誰、何に対して事業を行うのか）		2 手段（事務事業の内容、やり方、手順）				
市内の妊婦及びその家族		開催回数：年4コース（1コース3回） 開催場所：蓮沼保健センター・成東保健福祉センター 山武保健センター・松尾IT保健福祉センター 周知方法：山武市保健事業案内に掲載・母子健康手帳交付時に説明・申し込み期間内に電話で受付 事業内容：1回目 親業、助産師の話、妊婦体操 2回目 歯医者さんの話、妊婦歯科検診 パパの妊婦体験、沐浴体験 3回目 心の栄養「絵本とあそぼう」 栄養士の話、調理実習 スタッフ：歯科医師、保健師、助産師、歯科衛生士、栄養士 ＊1・3回目は平日、2回目は日曜日に開催。				
3 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）						
・安心して妊娠・出産・育児にのぞめる。 ・親としての心構えをもつことができる。 ・心配、悩み、問題があるときに相談できる社会資源を知る。 ・同じ体験をしている仲間ができる。						
4 活動指標・成果指標・事業費の推移						
区分	指標名称	単位	20年度実績	21年度実績	22年度当初	25年度目標値
活動指標①	年間延べコース実施回数	回	16	6	12	12
活動指標②						
成果指標①	参加割合	%	8.7	6.0	13.0	16.0
成果指標②	妊婦参加延べ人数	人	122	70	154	187
事業費		千円	154	108	144	
うち一般財源		千円	154	108	144	
5 目的妥当性						
☐ 法定受託事業である（根拠法令→） ☒ 妥当である ☐ 妥当性が低い		母子保健法第9条「知識の普及」第10条「妊産婦・乳幼児保健指導」妊娠、出産、育児に関する相談に応じ、個別的又は集団的に必要な指導、助言が必要。				
6 上位の基本事業への貢献度						
☐ 貢献度大きい（理由→） ☒ 貢献度ふつう（理由→） ☐ 貢献度小さい（理由→） ☐ 基礎的事務事業		事業内容は基本事業の充実のために不可欠であり、参加者の満足度は高いが参加者が少ない。 妊娠届出時に参加希望された方には個別通知をしている。				
7 対象や意図の妥当性、費用対効果の検討						
☐ 対象や意図を見直し、費用対効果を上げることができる ☒ 対象や意図の見直しはできない ☐ その他		医療機関での教室とは主旨の異なった事業であり、対象・意図の見直しはできない。				
8 有効性（成果状況）						
☐ あがっている ☐ どちらかといえばあがっている ☒ あがっていない		平成21年度は年間4回実施予定だったところ、新型インフルエンザが蔓延し妊婦へのリスクが高かったため、11月と2月のサロンは中止した。そのため成果（参加率）が大幅に下がった。 次年度以降は計画どおり年間4回実施できれば、成果向上の余地はある。				
9 有効性（成果向上余地）						
☐ 成果向上余地・大 ☒ 成果向上余地・中 ☐ 成果向上余地・小・無し						
10 事業の再編成						
☐ 類似の事業があり、再編成できる ☒ 類似の事業はあるが、再編成できない ☐ 類似の事業はない		医療機関での教室とは主旨が異なり、統合させることはできない。				
11 効率性（コスト削減の方法）						
☒ ある ☐ ない		助産師（専門家）は必要であるが、ボランティアを講師に招くことでコストを削減することはできる。				